

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する	<p>■3つの教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」の取組を実施することができた。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。</p> <p>■公開授業の回数を増やして授業改善に努めたが、家庭学習時間数の増加にはつながっていない。生徒の学習意欲向上につながる授業改善を一層進める必要がある。</p> <p>■大学合格状況は全般的にやや厳しい結果であった。入学時から学習習慣定着の指導に力を入れ、学力向上を図る必要がある。就職希望者は徐々に増加したが、最終的に100%の内定を得ることができた。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページを通して迅速に展開できた。しかしながら、生徒募集が厳しい現状を踏まえ、より魅力をアピールする方策を進める必要がある。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、部集を定期的に開いて北稜高校のリーダーとしての自覚を促す指導に努めた。ただ1年女子の途中退部者が多く課題となっている。</p> <p>■鍵1グランプリにおいて3連覇を達成し、自転車盗難への防犯意識を高めることができたが、自転車の安全運転についてはさらに注意喚起を図る必要がある。</p>	<p>【目標】 3つの教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を充実させる。部活動の一層の充実を図ることで自主性と社会性、規範意識を養う。コミュニティースクールとして積極的に地域連携を行い、これまで以上に地域から愛され信頼される学校づくりを行う。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)教員相互の授業参観を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究と実践を行う。 (2)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。 2 進路指導と生徒指導 (1)希望進路の実現に向け、生徒の学力向上に努めるとともにキャリア教育を推進する。 (2)挨拶や身だしなみ、言葉遣い、スマートフォン使用ルールの指導に力を入れ規範意識を醸成する。 3 部活動指導 (1)部活動加入率の向上に努め、部活動の一層の活性化を図る。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。 4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。 5 地域との連携 (1)コミュニティースクールとして地域の信頼を一層得るための努力を続ける。 (2)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		成果と課題
				項目	総合	
第1学年部	基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を高める	遅刻をなくし、欠席の場合は家庭連絡をもらえるよう働きかける。挨拶・服装・頭髪を整えるとともに、家庭・学校・社会のルールを守る規範意識を高められるようにする。部活動に積極的に参加させ、学校に軸足を置いた生活を送らせる。	1限目の遅刻・欠課者数を少なくできたか。規律等校内での指導を受ける者の数を少なくできたか。部活動加入率と定着率を前年度以上にできたか。			
	学習習慣の定着を図り、学力向上に努める。	目標に応じた学力を身につかせ、希望進路がかなえられるよう学習状況の把握に努め、学習習慣の確立につなげられるようにする。	個人面談等で生徒の状況を把握できたか。教科との連携で学習状況が把握できたか。定期的な学習時間調査を実施し、調査ごとに学習時間を増やせたか。			
第2学年部	主体性を育む	・挨拶の応答の際、一声かける行動を教員が積極的に行うことで、生徒の主体的な挨拶や声かけ行動を促す。	・挨拶に合わせて一声かける行動を、教員から積極的に行うことができたか。また生徒の反応を通して、発信力の向上を感じることができたか。			
	家庭学習の習慣	・生徒自身が生活習慣に合った時間の使い方を模索し、それを身に付けながら自立していくよう指導する。 ・生徒自身が学習課題に気づき、その課題に主体的に取り組む指導を定期的に行う。	・生活習慣を振り返ることで、生徒が自らを客観的な視点で捉えようとしたか。 ・生徒が主体的に学習課題に取り組む時間を確保したり、その意識を向上させたりできるような面談や声かけを定期的に行えたか。			
第3学年部	社会で生かせる基本的態度の確立	挨拶・身だしなみ・言葉遣い・聴く姿勢等社会・家庭・学校の規則を守る。常に身の整理・整頓を行い、時間を守る。	2回以上の生徒指導回数(遅刻指導を含む)をなくす。書類(課題等含む)期限内提出95%			
	個々の進路実現に向けた効率的学習時間の確保	進路を含めた面談をきめ細やかに進行。日々の家庭学習時間を記録させ、学習時間の充実を図る。	個人面談ひとり2回以上の実施 週一回家庭学習時間を記録させ、点検する。			

国語科	生徒の学習意欲を高め、しっかりと家庭学習を確立させる。	・予習や復習のきめ細かな指示と確認、小テストの定期的実施を行う。 ・定期考査などで自己を振り返る機会をつくり、自分の課題を見つけて自ら解決しようという意欲を持たせるような指導を工夫する。 ・定番教材の指導方法を見直し、生徒が主体的に参加できる授業形態をさらに工夫する。	・家庭学習時間を、国語が週3時間以上になるようにする。 ・学習内容を相互で確認し合い、生徒自ら予習の意欲につながる指導ができたか。			
	多様なそして多数の語彙を習得させ、豊かな世界観を育成させる。	・文法的体系だけでなく、類義語や対義語などの横の広がり、語源などの縦のつながりなど、いわば言葉のネットワークを意識させる。 ・ブックレビューの作成など、読書を喚起させる工夫を各小科目担当で協議し実施する。	・読書指導に特化した授業を1・2年生でそれぞれ2時間以上実施する。 ・文章表現の基礎的な力を養い、他者と協働しながら探究活動準備ができたか。			
地歴・公民科	各科目を通じて「国際教育」「環境教育」「主権者教育」の視点を踏まえた授業展開を心がける。	グローバルな歴史認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向に注目しながらの授業展開を工夫するとともに地域社会との関わり方のなかで、主権者意識を育てるとともにSDGsの視点で事象を把握できるように留意する。	絶えず現代世界の動向を見据えながら授業展開できたか。俯瞰的な視点で事象の因果関係を説明できたか。探究学習やレポート作成などを通じて主権者意識を育てられたか。事象をSDGsに関する視点で理解を深めることができたか。			
	生徒の実態に合わせた「わかりやすい授業」の教材開発に取り組む。	すべての科目において、学習内容の精選を行うとともに生徒の視点に合わせた教材開発(視聴覚教材 ICT)を心がける。その際、「総合的な探究の時間」とリンクする教材開発にも留意する。	教授内容の精選ができたか。新資料や視聴覚教材をタイムリーに提供できたか。レポート、討論など諸場面で活用できたか。			
数学科	生徒の希望進路実現に向けて、低学年で基礎・基本を固める。	・効果的な課題を教科会で検討し、課題を通して家庭学習を充実させ、小テスト等で知識の定着を確認する。 ・必要な生徒に対して基礎補充を定期的に行う。	・生徒が提出物や小テストに取り組んだか。			
	大学入試に対応できる力を育てる。	・思考力・表現力・判断力を伸ばす授業展開を教科会で検討し、実践する。 ・進学補習や土曜講座等で入試に対応した問題を取り組み、論理的に思考する力を養う。	・各学年で実施される進研模試等の成績を伸ばすことができたか。			
理科	自然現象への興味・関心を持たせ、授業への集中力を高める。	身近な自然現象を授業で積極的に扱ったり、演示実験、模型、ICT機器を活用したりして、興味・関心を持たせ授業に集中させる授業改善を行う。	自然現象に興味・関心をもてるように授業改善ができたか。			
	日常の学習習慣を確立させる。	年間を通じて日々の授業の重要性を強調する。明確で細かな指示を心がけ、生徒がスムーズに学習に取り組めるようにする。学習習慣の確立のため、課題プリント、実験・実習レポート等を定期的に提出させてチェックし、小テストも行う。	年間を通じて授業を含めた日々の学習の大切さを強調し、日常の学習習慣を確立させることができたか。			
保健体育科	主体的に学ぶ授業の充実をはかり、生徒の学習意欲を高める	生徒がより主体的に学べるよう、講座や生徒の状況に応じた各種目の目標設定を行い、達成感や充実感の高い授業にする。ICT機器等を使用し、仲間と相互に協力して課題を見つけたりアドバイスをしたりできるよう指導する。生徒主体の授業計画と授業実施を行い、生涯にわたってスポーツに取り組む姿勢と考える力の伸長を図る。	目標設定は、生徒が達成感や充実感を持ち、主体的に活動できるものであったか。 ICT機器等の使用によって、自己の動作や仲間の動作を客観的に捉え、課題を見つけることができたか。 授業計画書の作成を提出期限内に行い、その授業実施に向けて担当教員との確認作業を念入りに行ったか。			
	安全な授業進行の徹底	担当教員は事前に施設、設備、備品の安全点検を行う。また、授業内での怪我を防止するために、身だしなみの確認を徹底する。	授業前に担当者は毎時間、安全点検と生徒の健康観察、身だしなみチェックを行ったか。			
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを旨とする。	生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったかどうかを評価させる。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。	芸術の感性が高まり、諸能力が伸びたと感じた生徒が80%を超えるかどうか。 ICTやアクティブラーニングをとり入れた授業の開発の取り組みと、その積極的な展開ができたかどうか。			
	「国際教育」の中心的な教科としての自覚を持ち、生徒の学習意欲を高め学力を向上させる。	家庭学習を習慣づける。その一助として、各学年とも小テストを毎週実施したり、予習復習を詳しく指示し、1年生から必ず提出物を出すような習慣をつけさせて、学年が進む毎に自主的に取り組めるようにする。 英語検定取得者を増やす。特に、2年終了時までに、文理コースの生徒は準2級、英語コースの生徒は2級取得を目指すよう指導を徹底する。 GTECについては、意欲・目標を持って取り組み、スコアアップを目指す。2年時には検定版を実施して、オフィシャルスコアを取得させる。 英語コースについては、「アクティブイングリッシュ」「北後エッセイ」の授業を通して、GTECや英語検定の問題演習も行う。	各学年での小テストの実施・活用・評価への反映ができたか。 1年生からの必修提出物の指導を徹底できたか。2・3年と年次進行で自主的に取り組む姿勢を継続させられたか。特に、1年生に関しては、必修提出物の提出率100%を目指す。 英語検定取得者が各学年増加したか。 特に、2年終了時までに、文理コースの準2級取得者50%、英語コースの準2級取得者70%、2級取得率30%が達成できたか。 GTECについては、各学年とも1年後のコース平均を、総合コース30点アップ、文理英語コース60点アップを目指す。			
家庭科	1人の生活者として自立させる	食生活や、消費者問題を中心に自立して生活することを考える。	栄養バランスを考えた献立で作成ができるか。成人年齢が下がる中、消費者としての意識が確立できているか。			
	共生について考えさせる	乳幼児、高齢者、障がい者との共生について視聴覚教材などを通し主体的・対話的で深い学びにつなげていけるようにする。	各単元の終わりに、レポート作成やグループ学習のまとめをすることにより各課題に対してどのように考えるかを確認する。			
情報科	教科書だけの勉強で済まず、実生活に目を向ける授業展開を心がける。	基本的なPC利用・キーボード利用の修得を目指す。実社会で起こっている事例を例として取り上げ、身近なこととしてとらえさせる。	PCを使って創造的な活動ができること。情報の受信者・発信者として、リテラシーの重要性を自覚すること。			